



なぜ?なぜ?つうしん 2010年度 最終号

プロジェクトリーダーからのメッセージ

桑名 一隆(くわな かずたか)



暑さにも寒さにも負けず、こつこつ頑張った事が形になってきました。根気よく耕した畑の土づくり・何度も失敗しながら紡いだ糸で織り上げた味のある織物・車の下に潜り込んで懸命に組みつけた足まわり・独創的なデザインの陶器、懸命に取り組んでいる姿は素晴らしかったです。後一ヶ月、皆さんが誇れるものづくり体験にしたいですね。

農業



なぜっ子の声

(小5・男)

家でも農業をやっている家で活かせるらいいなと思いはじめました。ネギなど色々成功して良かったです。一年色々な事を経験できてとても良かったと思います。

早いもので、もう1年がたってしまいました。冬野菜を片付けた畑には元肥として牛糞と米ぬかを振り、春以降の準備も完了しました。耕起が終われば、畝を作り植え付け準備の完了となります。今年は夏の猛暑から急激な冷え込み、近年にない降雪と、前年以上に気象状況に悩まされ、収穫としては決して満足できるものとはなりません。降雨量の少なさ、寒暖の差の極端さから種まき・植え付けの時期の判断が2~3週間遅れとなってしまったことが原因であったと反省しています。今年の反省を、来年度の作付計画に活かしていきたいと思ひます。今年の子供たちには申し訳ない結果となってしまいましたが、これも農業の難しさだと理解してもらいたいと思ひました。 **農業チームリーダー 岩間 丈志(いわま たけし)**

織 維



なぜっ子の声

(小6・女)

生き物や布に興味があり始めました。ハタ織りは楽しかったけど、カイコはちょっとつらかったです。糸紡ぎは糸の太さの調節が難しかったです。

2011年卯年を迎え、正月8日は豊田市くらし発見館の方の指導により繭うさぎの雛壇作りを楽しんだ。今期もあと数回となり、今、織維チームのものづくりの中で最も重要な古い高機による機織りを行っています。古い高機は針金製両綜絢の手織り機と違い、自分達で糸の綜絢を作らなければなりません。面倒な糸綜絢作りをやっと終え、機に付けてみると踏木を踏んでも経糸が開かない。糸綜絢作りにミスがあったのだ。もう一度最初からやり直し、機に付けたが今度もダメ! またやり直して三度目にやっと織ることができるようになった。一つ一つの工程を確実に、集中して進めていくことの大切さ、そうすぐにはできない。人を育てるものづくりを学んでいます。 **織維チームリーダー 深津 鋼次(ふかつ こうじ)**

自動車



なぜっ子の声

(中1・男)

車を解体するのは面白そうだと思ひ入りました。指導員の方はきびしいけど、楽しくやっています。一年が終わってしまうのはさみしい気がします。

雪の中、寒さにも負けないで、子供達も指導員も完成に向け頑張っています。いよいよ『修復グループ』では、大騒ぎで部品を探しながら組立に突入! 『夢の車づくり』は、2台の車のボディ仕上げと、フレームの溶接や製作に励んでいます。『なぜ?なぜ?心得』も元気な声で、しっかり言える様になり、試走会に向けて、一致団結し取組めるようになってきました。この1年の活動が、これからの子供たちにとって、有意義になるよう最後までやり通したいと思ひます。全員、はりきっていますので、保護者、関係者の皆様の御協力を引き続き、お願いいたします。

自動車チームリーダー 前田 浩二(まえだ こうじ)

陶 芸



なぜっ子の声

(小6・男)

以前瀬戸で焼き物を作って面白かったので入りました。1年目よりどんどんうまくなって、お母さんにもほめられて、うれしくてどんどんやっています。

今年の共同作品のテーマは皆で話し合い「夢の星」となりました。子供達はそれぞれの思いを粘土に込めて作り上げ、15人のユニークな作品が出来上がりました。これは自分の顔?動物の顔?いっぱい突起が付いていて壊れそうで怖いのですが、面白い作品が揃いました。子供達の想像力は凄いです。それぞれの持っている力を壊さないように指導していきたいと思ひます。「夢の星」はおわりの式にご披露できるように準備をしています。子供達は作業事に自主的に活動できるところも出てきて、一年間の成長は大きいなと感じています。最後の薪窯の本焼きも終わりましたが順調に焼き上がったようです。薪の投げ入れ方も上手になってきました。

陶芸チームリーダー 牧原 理恵子(まきはら りえこ)

保護者の方へ

一年間の活動の卒業式とも言える「おわりの式」が3月19日(土)に開催されます。詳細については改めて案内を郵送させていただきますが、保護者の皆様にもぜひご出席いただきますようよろしくお願い申し上げます。

編集後記

早いもので7年目のなぜ?なぜ?プロジェクトも残りわずかとなってしまいました。ものづくりの技だけではなく心を学ぶ。その過程は決して楽しいことばかりではなくつらいことや苦しいこともある。だけどそれを乗り越え達成した時の喜び、感動こそが本当のものづくり。皆さんはどうでしたか? いくつの「なぜ?」を胸に抱き、いくつの「発見」をし、いくつの「喜び」「苦しみ」そしていくつの「出会い」をしましたか? その経験を、ぜひ、大人になっても忘れないでいて下さい。(I)

なぜボラの声

自動車チーム

仕事では車体に触れる機会がほとんどないため、ここでの経験はとて勉強になります。毎回、「これはどうなってるんだろう?」という疑問が山積みです。子供達にも学校の勉強も大変だけど、卒業しても学ぶことがいっぱいあるんだということと、好奇心旺盛に学ぶ気持ちを持ち続けてほしいと思ひます。

なぜボラの声

織維チーム

1年目から関わっています。出身地(富山県八尾)は昔養蚕等が盛んで、子供の頃にそういうことに慣れ親しんできました。そんな知識を活かせたらと思ひて少しでもお役に立てればと思ひています。子供達には、今はまだよく分からなくても、ここでの経験がいずれ必ず役に立つことを信じています。